

2019年度
学校関係者評価委員会第1回議事録

日時：2019年9月24日（火）18時30分～20時15分

場所：東京 YMCA 医療福祉専門学校 15 教室

出席者：吉野 たけし氏 小泉 昌広氏 永井 純氏 山野 晴雄氏
列席者：村上 剛 八尾 勝 倉持 有希子 中浦 俊一郎 林 恵子

I. 聖書日課

Tokyo YMCA Daily Message の本日の聖句とその解説を村上校長が朗読した。

II. 議事

1. 開会のあいさつ 村上校長

2019年4月より村上が校長に、八尾が相談役に就任した旨の報告の後、本委員会の進め方について説明があった。第一回の委員会で自己点検自己評価の概略を校長より説明した後、委員の皆様からご意見を頂き、第二回の委員会では第一回で出た意見に対し学校としてどのように対応していくかをお示ししてそれへの意見、助言を頂く流れとなる。

2. 各委員の自己紹介

出席委員より自己紹介と近況報告を行った。

①山野委員

ボランティアとして地域の方々の居場所づくりに関わったり、個別塾を手伝っている。

②小泉委員

4月から新しい職場で教えられる側として色々学ぶ毎日を送っている。

先日YMCAの同期10名で久しぶりに食事をしたが卒業後20年で7名が介護職を継続していた。

③永井委員

新しい事業のための準備を行っている。

週に1回、特別支援学級で講師をやっている。

④吉野委員

新しい時代に向かってどう生き残っていくか策定中。最近英語の勉強をスタートした。

12/21 ポッチャ国立予選会をやるので是非ご参加を！

3. 議長の選出

委員会の規定に従い議長を互選した結果、吉野委員が議長に決定した。その後、議長の司会により会が進められた。

4. 自己点検結果の説明

村上校長より資料「自己評価報告書・要約版」を用いて次の通り、要点の説明が行われた。

2019年4月、学生数は前年度比109%でスタートした。学生数増となったのは、留学生15名が入学したことと、OT科の退学者がゼロだったことが影響している。

●重点目標と達成計画

・高校時代に学習習慣のなかった者、留学生にきめの細かい指導をするために、わかりやすい授業、丁寧な学生サポートを行っている。介護福祉科1年は4月は留学生15名、現役生16名、訓練生10名の構成で良いスタートを切り、留学生補講を毎日行っている。しかし日本語力が補講だけでは追いつかないといった課題が出てきた。

・ボランティアの機会を増やすことにより地域とのつながりができ、学生の成長にも役だっている。

・留学生の入学は「多様性を受容する」ことにつながっている。

・学生募集ではAO入試を導入し、早い時期に高校生の動きがあったが果たして10月からの入試受験者が前倒しになっただけではないか心配。21名エントリー面談済。9/30迄が出願期間。AO入試合格者に対しては入学前学習をしっかり行い入学までに備える予定。

・立川の通信制高校と連携し、「介護福祉・作業療法講座」の授業を年24回行っている。

・PDCA研修を教職員全員で行い、学生募集への意識は高まってきている。

・EPA介護福祉士候補生の週1回の日本語・介護の委託研修は受講者数が60名を越える。

●学修成果

・一般市民対象の公開講座を行っている。9/23はICT講座を実施した。

・学修成果 国家試験合格率 介護福祉科 21人中21人合格 100%

作業療法学科 18人中9人合格 50%

OT科は合格率を上げるために早期から国試対策を行うなど様々な工夫を試みている。

●学生支援

・スクールカウンセラー（臨床心理士）に週1回来てもらっている。

・OT科で行ったホームカミングデイ（6月実施）では卒業生が30名以上集まった。

●教育環境

・Wi-Fi環境、PC環境の整備を行った。

●財務

・きびしい状況が続いているが去年度より今年度の方が改善されることを願う。

上記要点の補足

介護福祉科学科長 倉持より

留学生はN2を求めたが実際はN3不合格で入学してきた学生もいる中、色々な工夫をしてきたが、週28時間のアルバイトをしながら通学しているため、日本語の勉強をする時間がない。アルバイト中（全員高齢者の施設でアルバイトをしている）に使う日本語は限られているため、なかなか日本語が上達しない。留学生補講は日本語教員と介護教員で行っている。今は日本語メインにやっているがレベル差がありむずかしい。ベトナム人同士でくっついてしまうのもよくない。留学生が理解できるようにわかりやすく説明することで、かえって使う語彙が増えてしまいますますわからなくなってしまう事もある。試行錯誤の毎日である。

八尾相談役より

介護福祉科は2020年4月入学生までが卒業時の国家試験の結果に関わらず介護福祉士として就労できる。不合格だった者も5年継続勤務すれば正式に介護福祉士が取得できる猶予期間である。

留学生については紹介業者、エージェント、日本語学校、社会福祉法人（高齢者施設）を通して入学してきている。入学時の日本語能力N2相当をどこまで守るべきか、入学後のアルバイトの時間は適切か、入学後の補講体制は何が効果的なのか、まじめさと忍耐でがんばっている留学生を目の前で見ていると何とか日本で成功する道筋を作っていきたいと考えている。

作業療法学科学科長 中浦より

国試対策が一番大きな課題として取り組んでいる。1年次最後の時期から3科目（運動、解剖、生理）をスタートさせ、2年次ではインプットからアウトプットができるように、そして3年次は模試を目標に勉強させている。自主的に動けない学生が多い中、教員で枠組みを作り、学生が勉強しやすいシステム作りをしている。

卒業生の活用、という点では、6月に行ったホームカミングデイには在校生も参加させ、「学ぶ意欲をくすぐる」ような旬な話を卒業生にしてもらい大変効果があった。

また保護者との連携は大切だと考えているため、春に1年～3年まで全学年の保護者会を実施した。保護者からの評価もアンケートの結果をみると高かった。

5. 質疑応答・ディスカッション

<アンダーラインは学校改善に向けた提案の主たる個所>

以下のような意見交換が行われた。

山野委員 介護福祉科へ留学生が入学してきてどのような状況なのか？メリット、管理状況などをお聞かせいただきたい。

八尾 ベトナム人留学生が積極的なため、日本人学生も刺激を受け発言をしたり、ハローワーク経由の訓練生（大人の学生）と留学生と若い日本人学生をミックsgループにしてグループワークをやらせることでお互い良い刺激を与え合っている。

留学生の入学に関しては、仲介のエージェントと受入れ先の施設と本校との三者が関わって進めている。今年入学した留学生の中にはN3不合格で入学させた留学生もいるが、2020年4月入学の留学生は入試でN2相当の日本語力があることをきちんと測って入学させたい。

山野委員 留学生の人数はある程度にとどめ、日本人学生を確保してほしい。高校訪問を頻繁に行い、高校にきめ細かい情報を伝えて良い関係を築いてほしい。フェイスブック、ブログなどのSNSをもっと利用してはどうか。

村上 1つの高校へは年2回程度訪問している。オープンキャンパス参加者の高校へは1週間以内に報告に行っている。

吉野委員 若者に効果があるSNSは一番がインスタグラム、2番がツイッター、3番がブログだと

聞いている。私の学校でもインスタをはじめた。

小泉委員 過日 YMCA の介護福祉科の講師をやったが留学生が多いので「わかりやすく、ゆっくり」話す努力をしたがむずかしかった。教員達の苦労が想像できる。しかし学生達の表情はとても良かった。今後も YMCA とのつながりを大切に協力できる部分は協力したい。

永井委員 私の病院では外国人スタッフが数名いるが、彼らの「生活スケジュールの確認」を行っている。日中は勤務、その後 17 時から勉強をしているのか面談を行ったところしていないことがわかったので、病院内に場所を設け勉強できるようにした。また休日の過ごし方もアドバイスし、日本人新入職員と関わらせ、日本語力が上がるようにした。

今年から開始した AO 入試について教えてほしい。高校の先生の推薦は必要なのか？

村上 高校の推薦は不要。未成年の生徒は保護者の確認が必要。ただ、高校の先生とは密に連絡を取り合っている。

山野 AO エントリーには高校の承認を「押印」と言う形で確認するのがルールである。今後はそうしてほしい。

林 オープンキャンパスに参加した時点でその事を高校には原則として訪問しながら報告している。また、エントリーシートを渡した時点、願書が出た時点などに集報告している。押印のルールについては次年度改善する。高校とは常に生徒の情報を共有しながら生徒の進路選択に関わっている部分は手を抜かずに行ってゆきたい。

吉野委員 同じ多摩地区に同分野の専門学校がいくつかあるが、YMCA の一番の強みは何か？

八尾 OT 科は定員 30 名（3 年制なので計 90 名）に対し専任教員が 6 名。他の大学、専門学校は定員 40 名～45 名で 4 年制が多いため、それらと比べると本校は手厚い関わりができる。また、介護福祉科については、募集停止の学校が増える中、私自身が東京都やその他の関係団体とつながり、高校の教員との連携もとれていること。何よりも本校の介護福祉科の教員の教育力が高い。しかし残念なことに介護をやりたい希望者がいない。

吉野委員 その「強み」が発信できているか？

介護の希望者がいないことに縛られず、新しい学科開発や附帯事業を考えてみるのも良いのではない

か。土曜、日曜の貸し教室など収益事業も考えていく必要があるのではないか。

山野委員 福祉の魅力を伝えるためにも、従業員の待遇改善を要求するなど業界全体で行い、悪いイメージを払拭していく必要がある。

八尾 同じ業界内で転職していても「離職」としてカウントされてしまう。離職の理由の 1 位は「人間関係」である。各方面への働きかけは行っているがさらにがんばらなくてはいけないと考えている。社会保障にお金を使うことが悪である、というイメージも払拭していきたい。

6. 閉会のあいさつ

村上校長より、委員の皆様のご意見、そしてディスカッションを踏まえ次回の本委員会で今後の本校の対応をお伝えしたいと思っている旨と、委員への感謝の辞が述べられて閉会となった。

Ⅲ. 次回日程確認

2019年11月13日（水）18時30分～20時

記録：林恵子